

「トゥレット症候群に合併した角膜拡張症に対する角膜クロスリンクの効果の検討」へご協力をお願い

1. 研究の対象

2013年1月～2016年12月に当院で角膜クロスリンクを受けられた方のうち、トゥレット症候群が原因で円錐角膜（角膜拡張症）が進行したと考えられた方

2. 研究目的・方法

角膜クロスリンクは、進行性の円錐角膜（角膜拡張症）に対して、その進行を停止させることができる方法です。トゥレット症候群はご本人の意思とは無関係に顔や体を動かしてしまう病気、チックの中でも、顔を触ってしまうもののことを言います。トゥレット症候群のために目をこするくせのある方は、そのために円錐角膜（角膜拡張症）が進行することがあります。

当院では、以前に「円錐角膜に対するKXLを用いた角膜クロスリンクの有効性と安全性の検討」という臨床研究を行い、日本人の進行性円錐角膜に対して角膜クロスリンクが有効かつ安全なものであることを調べました。今回は、その時に研究に参加していた患者さんの中でトゥレット症候群により円錐角膜が進行していたと思われる3名の方について、角膜クロスリンク前後の症状の経過を調べることを目的としています。方法は、すでに当院を受診していただいた際の診療録の記録を調べるだけで、新しい検査を行ったりはしません。

本研究により、トゥレット症候群による角膜拡張症に角膜クロスリンクが効果があるのかないのかが明らかになれば、同じ病気で苦しむ世界中の患者さんに適した治療法を考える上で意義があります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテに記載されている視力、屈折度数、角膜屈折力、角膜圧、眼圧、角膜内皮細胞数、眼軸長、その他の所見を調べます。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒272-8513 千葉県市川市菅野 5-11-13

東京歯科大学市川総合病院

研究責任者 眼科 加藤 直子

電話：047-322-0151

研究責任者：

東京歯科大学市川総合病院 眼科 加藤 直子

-----以上